国際シンポジウム

「和解学」への学際的アプローチ

―方法論と応用―

INTERDISCIPLINARY APPROACH TO "RECONCILIATION STUDIES" : APPLICABILITY TO JAPAN-CHINA RELATIONS

2014年11月30日（日）JST東京本部別館１Fホール

開催趣旨

今日、世界ではナショナリズムに基づく摩擦や紛争が激しさを増しています。独裁的な政権の下で抑え込まれていた過去の「敵」に対する民族・国民の憎しみや怒りが、自由化にともなって噴出しているのでしょうか。ヒト・モノ・カネ・情報・価値観のボーダーレスな移動の飛躍的増大に対する保護主義的な動きが、ナショナリズムの外衣をまとい、摩擦・紛争を引き起こしているのでしょうか。パワーの拡大に邁進する国家が、国民の支持をとりつけるべくナショナリズムを鼓舞しているのでしょうか。脆弱な政権が、政治的凝集力を高めるために、経済的・政治的閉塞感の捌け口としてナショナリズムの抗し難い魔力に屈しているのでしょうか。

ナショナリズムに基づく摩擦や紛争を克服するのは容易なことではありません。国家関係のみならず社会や個人のレベルをも含んだ「和解(reconciliation)」のプロセスを構想する必要があります。

本和解学シンポジウムは、「和解学シンポジウム実行委員会」が、独立行政法人科学技術新興機構とともに主催するものです。本年三月に行った「現代日中関係の源流をさぐる――再検証1970年代――」シンポジウムに続く二回目の試みです。今回は、国際政治学、政治社会学、政治心理学、歴史学などで蓄積されてきた「和解学」の成果を共有するとともに、広い視野から、国境を超えて、日中の「和解」のあり方を検討したいと思います。ぜひ、ご参集下さい。

開催概要

日　時 … 2014年11月30日（日）13：00～18：00（12：30開場）
会　場 … 科学技術振興機構-東京本部別館１Fホール(市ヶ谷駅徒歩4分)
主　催 … 「和解学」シンポジウム実行委員会
共　催 … 独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究交流センター
助　成 … 国際交流基金・トヨタ財団・東華教育文化交流財団・東洋文庫現代中国研究班
協　力 … 早稲田大学現代政治経済研究所
言　語 … 日本語・英語・中国語（同時通訳あり）
※当日受付にて、ご希望の方にレシーバーを貸出しいたします（有料1000円）
定　員 … 200名（先着順）

お申し込み・お問い合わせ

- 下記いずれかのウェブサイトより、11月25日までにお申し込みください。
  - サイエンスポータルチャイナウェブサイト
    http://www.spc.jst.go.jp/event/info_20141130.html
  - シンポジウム専用サイト
    http://sympo-reconciliation.jimdo.com/
- 申し込み・会場についてのお問い合わせ：
  JST中国総合研究交流センター　Tel: 03-5214-7556 / E-mail: crcc@jst.go.jp
- シンポジウムの内容に関するお問い合わせ：
  小嶋 華津子　E-mail: k.kojima@law.keio.ac.jp

「新しい日中関係を考える研究者の会」http://japanchinarelations.org

国際シンポジウム

「和解学」への学際的アプローチ ―方法論と応用―

INTERDISCIPLINARY APPROACH TO "RECONCILIATION STUDIES" : APPLICABILITY TO JAPAN-CHINA RELATIONS

プログラム

12:30 … 開場

13:00 … 開会の辞

久保 亨（信州大学） 広瀬 研吉（科学技術振興機構中国総合研究交流センター副センター長）

13:10 - 14:20 … 第Ⅰ部 基調講演

Volker Stanzel（Claremont Mckenna College訪問教授、元ドイツ駐中国／駐日本大使）

"Bold Enough for Reconciliation? Why a Social Consensus on Forgiveness is Indispensable?"

Canon David Porter（The Archbishop of Canterbury's Director for Reconciliation）

"On the Far Side of Revenge: Making Peace in Northern Ireland"

14:25 - 15:45 … 第Ⅱ部「和解学」の現在

モデレータ： 村田 雄二郎（東京大学）

報告者： 石田 勇治（東京大学） Hugh Miall（University of Kent）
袁 偉時（中山大学） Simon Shen（香港中文大学）

16:00 - 17:45 … 第Ⅲ部 ラウンドテーブル・ディスカッション「和解学」の応用

モデレータ： 平野 健一郎（東洋文庫）

パネリスト： 汪 錚（Seton Hall University） 天児 慧（早稲田大学）
竹中 千春（立教大学） Volker Stanzel Canon David Porter

17:45 … 閉会の辞

毛里 和子（早稲田大学）

総合司会：菱田 雅晴（法政大学）

懇 親 会

18:30 …

場 所：市ヶ谷アルカディア私学会館（東京都千代田区九段北4-2-25）
http://www.arcadia-jp.org/access.htm

参加費：￥4,000（当日シンポジウム会場受付にて徴収させていただきます）

独立行政法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

登壇者略歴

久保 亨

1953年生まれ。信州大学人文学部教授。専門は中国近現代史。著書に『戦間期中国［自立への模索］――関税通貨政策と経済発展』（東京大学出版会、1999年）、『戦間期中国の綿業と企業経営』（汲古書院、2005年）、『シリーズ中国近現代史(4)　社会主義への挑戦』（岩波新書、2011年）、編書に『1949年前後の中国』（汲古書院、2006年）、『中国経済史入門』（東京大学出版会、2012年）など。

広瀬 研吉

1948年生まれ。JST中国総合研究交流センター副センター長。九州大学工学部応用原子核工学科卒業。エネルギー科学博士。科学技術庁原子力局原子炉規制課、原子力安全課長、大臣官房審議官(科学技術・学術政策担当)、経済産業省原子力安全・保安院長、JST理事等を歴任。福井大学特命教授、東海大学国際教育センター教授。

Volker Stanzel

Volker Stanzel, Ambassador (ret.), is a Visiting Professor at University of California Santa Cruz, Member of the German-Japan Forum, Council Member of the European Council on Foreign Relations, Senior Policy Fellow for China in International Affairs at Mercator Institute for China Studies, and Member of the Board of the Academic Confucius Institute at Goettingen University. He is a retired German diplomat and served as Ambassador to Japan (2009-13); Political Director (2007-09); Ambassador to China (2004-07); Director-General, Political Affairs (2002-04); Director, Asian and Pacific Affairs (2001-02). He studied Japanese Studies, Sinology and Political Science at Frankfurt, Kyoto and Cologne Universities and holds a Ph.D. from Cologne University.　For his occasional publications on East Asian and other political topics see http://en.wikipedia.org/wiki/Volker_Stanzel.

Canon David Porter

Canon David Porter is the Archbishop of Canterbury's Director for Reconciliation, seconded from the Reconciliation Ministry at Coventry Cathedral. Previously he was co-founder and Director of ECONI (Evangelical Contribution on Northern Ireland). David is honorary Research Fellow in Peace Studies at Coventry University. In 2006 he was Visiting Practitioner Fellow at the Centre for Reconciliation, Duke University Divinity School. From 2007 until 2011 David was a member of the Northern Ireland Community Relations Council and a trustee of Warwickshire based peace building charity, CORD. In 2007 he was appointed by the British government to the independent Consultative Group on the Past. In 2000/03, David served on the Northern Ireland Civic Forum, chairing its working group on peace building and reconciliation. He is an honours graduate in Theology from the London School of Theology, with a Masters in Peace Studies from the University of Ulster.

村田 雄二郎

1957年東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。1982－84年、北京大学鉄学生高級進修生。1999－2000年、ハーバード・イエンチン研究所客員研究員。専門は、中国近代史、中国地域研究。主な著書に『東アジアの知識人』全5巻（共編，2013-14年）、『清末中国と日本――宮廷・変法・革命』（共著，2011）、『リベラリズムの中国』（主編，2011）、『新編 原典中国近代思想史』全7巻（共編，2010-11年）など。

登壇者略歴

石田 勇治

1957年京都市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。ドイツ近現代史専攻。主な著書に『過去の克服―ヒトラー後のドイツ』（白水社）、『20世紀ドイツ史』（白水社）、共編著に『図説ドイツの歴史』（河出書房新社）、『ジェノサイドと現代世界』（勉誠出版）、史料集に『ドイツ外交官の見た南京事件』（大月書店）などがある。

Hugh Miall

BA (Oxon), PhD (Lancaster), Emeritus Professor of International Relations, University of Kent. Hugh Miall joined the University of Kent in 2005. Before moving to Kent, he was a Reader in Peace and Conflict Research and Director of the Richardson Institute at Lancaster University. He was previously a Research Fellow in the European Programme of Chatham House, research director of the Oxford Research Group, and a researcher in energy and environmental issues at the Centre for Earth Resources Research. He has taught at Essex University and the Open University and has been a visiting Research Fellow at the Centre for Conflict Studies at the University of Utrecht. He was Head of School from 2007-2009. Prof. Miall is the Director of the Conflict Analysis Research Centre.

袁 偉時

1931年12月生まれ。中国広東中山大学哲学系教授。研究領域は中国近代史、中国思想文化。1986－1990年中山大学孫文学院初代院長、中国現代哲学史学会副会長。主な著作に、『中国現代哲学史稿』（教育部優秀教材賞受賞）、『中国現代思想散論』、『大国の道』、『帝国落日：晩清大変局』等のほか、日本語訳書『中国の歴史教科書問題：「氷点」事件の記録と反省』。

Simon Shen（沈 旭暉）

Graduated from University of Oxford and Yale University, Dr. Simon Shen is an associate professor & director of Global Studies Programme, Faculty of Social Science, the Chinese University of Hong Kong. He has published more than 70 academic articles and publications including 13 articles in leading SSCI journals such as China Quarterly (twice), China Review, Journal of Contemporary China, Pacific Affairs, Pacific Review, Asian Survey, among others. Invited to serve as visiting fellows by the Brookings Institution and the University of Warwick's Center of Globalisation and Regionalisation, his scholarship on contemporary anti-Western Chinese nationalism and its online format has gained worldwide attention.

平野 健一郎

東洋文庫理事。早稲田大学・東京大学名誉教授、前国立公文書館アジア歴史資料センター長。1937年生まれ。東京大学助教授・教授(1970年‐1998年)、早稲田大学教授(1998年‐2008年)。専攻は近代東アジア国際関係論、国際文化論。主な著書に、『東アジア共同体の構築３　国際移動と社会変容』（共編著・岩波書店、2007年）、『国際文化関係史研究』（共編著・東京大学出版会、2013年）など。

登壇者略歴

汪 錚

Zheng Wang is the Director of the Center for Peace and Conflict Studies (CPCS) and an Associate Professor in the School of Diplomacy and International Relations at Seton Hall University in New Jersey. He is also a Global Fellow at the Woodrow Wilson International Center for Scholars. He is the author of Never Forget National Humiliation: Historical Memory in Chinese Politics and Foreign Relations (Columbia University Press, 2012). This book is the recipient of the International Studies Association's the Yale H. Ferguson Award for the best book of the year. The Japanese version of the book (中国の歴史認識はどう作られたのか) was published by Toyo Keizai Inc. in May 2014.

天児 慧

早稲田大学教授。早大現代中国研究所所長兼人間文化研究機構現代中国地域研究９拠点代表。一橋大学大学院で博士号取得。琉球大学助教授、青山学院大学教授などを経て、2002年4月より現職。2009年ブリティッシュコロンビア大学、2010年オーストラリア国立大学で客員教授。1986～1988年駐中国日本大使館専門調査員、1999～2001年アジア政経学会理事長。2003～2007年朝日新聞アジアネットワーク社外委員、2008～10年朝日新聞書評委員、2008～2012年日本学術振興会グローバルＣＯＥ(Center of Excellence)「アジア統合を目指す世界的人材育成拠点形成」代表などを歴任。主著として『日中歴史の「変わり目」を展望する』編著、勁草書房、2013年、『日中対立－習近平の中国を読む』筑摩書房、2013年、『中華人民共和国史　新版』岩波書店、2013年。

竹中 千春

立教大学法学部教授。1979年東京大学法学部卒。東京大学法学部助手、同東洋文化研究所助手、明治学院大学国際学部教授などを経て2008年4月より現職。現在、アジア政経学会理事長、日本平和学会副会長、公益財団法人国際文化会館評議員、公益財団法人日印協会理事。専門は国際政治・南アジア政治・ジェンダー研究。留学経験はインド政府奨学生としてデリー大学政治学部（1980-81）、国際文化会館新渡戸フェローシップでデリー大学歴史学部(1989)。フルブライトフェローとしてスミソニアン学術協会ウッドローウィルソン国際センターおよびジョージワシントン大学にて客員研究員(1995-97)。著書に『盗賊のインド史――帝国・国家・無法者』（有志舎。2010年）、大平正芳記念賞受賞。『世界はなぜ仲良くできないの？暴力の連鎖を解くために』（阪急コミュニケーションズ､2004年）。

毛里 和子

早稲田大学名誉教授、現代中国研究所顧問。2011年に「文化功労者」に顕彰され、これまで「中国学研究貢献奨」(2010年度)、「福岡アジア文化賞」(2010年度)などを受賞。専門は中国政治と外交、東アジア国際関係。主な著書に『グローバル中国への道程―外交150年』（川島真と共著、岩波書店、2009）、『日中関係―戦後から新時代へ』（岩波書店、2006）、『現代中国政治』（名古屋大学出版会、1993 / 新版2004 / 第3版2012）、『現代中国政治を読む』(山川出版社、1999)、『周縁からの中国―民族問題と国家』（東京大学出版会、1998）、『中国とソ連』（岩波書店、1989）などがある。